

P1

手話言語非使用者の表情と言語行為

ジェレミー・クーン*、エマニュエル・シュムラ**
(ジャン＝ニコ学院／高等師範学校 [フランス] *
認知科学・心理言語学研究所 [フランス] **)

概要

手話言語は文法体系に顔の表情での表現を組み込んでいる。口話とも共有しているような、精神的な状態を表す感情表現 ([2]) に加えて、手話言語では文法化した表情表現を、記述的な意味 (「不注意に」など) と抽象的な意味 ([4]) の双方に用いる。後者のカテゴリーでは、例えばアメリカ手話では、直接法 (ニュートラルな表情) と、yes-no 疑問文 (眉を上げる)、wh 疑問文 (眉間にしわを寄せる) で異なった顔の表情を見せる。手話を使わない聴者が、同様の抽象的で言語学的な目的で顔の表情を採用することがあるだろうか ([1])。本発表では、我々は非手話話者が、顔の表情のみに基づいて「ジェスチャーの入った文」の言語行為を同定することができるかどうかをテストした。我々は 4 つの言語行為に焦点を当てた。直接法の叙述文、命令文、wh 疑問文、yes/no 疑問文である。

実験

刺激：我々はアメリカ文化で表象的に使用される 4 つのジェスチャーを使用した。親指を上げる (よい)、親指で指す (自身)、手首を叩く (時間)、指をこする (金) である。このそれぞれのジェスチャーについて、そのジェスチャーを使って会話する 4 つの文を作った。この 4 つの文は、それぞれ異なる言語行為を例示している。(「金」のテーマは「それは高い」「支払え」「おいくらですか」「お金がいらいますか」など)。一人の英語話者のアメリカ人がそれぞれのジェスチャーについて、4 つの意味を伝える自然な方法と感じられるジェスチャーを行い、全部で 16 のビデオが作られた。

タスク：オンライン調査で、非手話話者のアメリカ人被験者が、それぞれのセットの刺激ビデオを見て、4 つの変形文を 4 つの与えられた意味とくみあわせるように言われた。実験 1 では、被験者はジェスチャーと顔の表情の両方の全てのビデオを見た。組み合わせを確かめることは顔の表情だけに基いて行われた。実験 2 では、同じ素材を使って、但しビデオは顔だけが入るようにカットされた。無関係な、テーマに特定の顔の表情をコントロールするため、実験 3 では実験 2 と同じ素材を使って、ランダムに意味の選択のセットと刺激のビデオのセットが合わないようにした。(例えば、「金」がテーマの意味の選択で「時間」のビデオの顔の表情が見せられるなど)。実験 4 ではこれらのどの意味が動的なキューと静的なキューによってどの程度引き出されるかを調べた。やり方は実験 3 と同じで、但し刺激だけは、ビデオの代わりに顔の表情の絵が使用された。

結果：全ての実験において、それぞれの言語行為で被験者は期待値を上回る数値を出した。絵を使用した実験 4 においては正確さは減少したが（しかしそれでも期待値は上回った）、これは頷く動作が静的な画像で失われた直接法叙述文において最も顕著であった。

議論

口話においては、顔の表情はしばしば言語学の構成要素とは切り離されて「パラ言語学的」と言われる。我々の調査は、顔の表情が、非手話話者が発話やコミュニケーション行為の抽象的な性質を補うのに使用しうることを示した。これらのジェスチャーには生得的な土台があるのだろうか（[3]）。ここで明らかになったように、実験に使われた多くのキューは同じ目的でアメリカ手話にも使われている。（例えば、眉毛をあげる/しわを寄せる行為のように）。

アメリカの非手話話者がフランス手話の言語行為を同定するような、類似の実験デザインを含むさらなる追跡調査によって、この可能性はさらに大きくなることが期待される。

参考文献

- [1] Brentari, D. 2016. The role of prosody in the production and perception of imperatives: Data from signed and spoken languages. Talk presented at the Institut Jean Nicod, January, 2016.
- [2] Emmorey, K. 1999. Do signers gesture? In Messing and Campbell (eds.), *Gesture, speech, and sign*. 133-159. Oxford: Oxford University Press.
- [3] Janzen, T and S. Barbara. 2002. Gesture as the substrate in the process of ASLs grammaticalization. In Meier, Cormier and Quinto-Pozos (eds.), *Modality and structure of signed and spoken language*. 199-223. Cambridge: University Press.
- [4] Reilly, J, M. Marina and B. Ursula. 1990. The acquisition of conditionals in American Sign Language development: Grammatical facial expressions. *Applied Psycholinguistics* 11. 369-392.